

# 第29回 飛騨・美濃歌舞伎大会ぐじょう

2022

日時

令和4年11月13日(日)

午前10時開場／午前10時30分開演

会場

郡上市総合文化センター

郡上市八幡町島谷207-1



観覧申込フォーム

<https://logoform.jp/form/SVsW/159055>



午前11時～

※掲載写真は上演外題と異なります

一、女おんな 暫しばらく

岐阜歌舞伎保存会(岐阜市)



午後12時40分～

二、義経千本桜

美濃歌舞伎保存会(郡上市)



午後2時15分～

※掲載写真は上演外題と異なります

三、寿曾我対面

土岐歌舞伎保存会(土岐市)



午後3時25分～

四、奥州安達原三段目

高松歌舞伎保存会(郡上市)

※舞台転換の都合上、各団体の上演開始時間は変更になる場合があります。予めご了承下さい。

**観覧は事前申込制です** 先着450人・11月4日(金)締切 入場無料 自由席

インターネットまたは電話にて受け付けます。

インターネットの場合は、右上のQRコードまたはURLから観覧申込フォームにアクセスしてお申込み下さい。

電話の場合は、下記の電話番号におかけいただき、代表者氏名・住所・電話番号・観覧人数(4人まで)・自家用車で来場される場合は台数をお伝え下さい。

主催

「第29回飛騨・美濃歌舞伎大会ぐじょう2022」実行委員会 岐阜県地歌舞伎保存振興協議会

岐阜市／土岐市／郡上市

後援

岐阜県／岐阜県教育委員会

問合せ先  
申込み先

郡上市教育委員会 社会教育課

郡上市八幡町島谷207-1 TEL0575-67-1128

新型コロナウイルス感染  
予防対策について

- ・発熱や風邪症状のある方は参加をお控え下さい。
- ・マスク着用
- ・手指消毒及び検温の実施
- ・声援、歌唱、入り待ち、出待ち、おひねり、大向こうの禁止



# 女 暫

岐阜歌舞伎保存会

岐阜市

長滝白山神社へ平家追討で大きな功績をあげた蒲冠者範頼が、家来たちを引き連れて参拝にやってくる。そこへやってきたのが木曾源氏の主流、清水冠者義高とその婚約者紅梅姫たちの二行。義高は近頃目にあまる範頼の傲慢なふるまいをたしなめる。一族の駒若丸らが、紛失した家宝・倶利伽羅丸を範頼が持っているなら早く返せと迫る。しかし範頼ははなもひつけず以前から執心の紅梅姫をなびかせようとするが、一向にいう事を聞かないので家来の成田五郎を呼び出して、全員成敗してしまえと言いつける。今にも、一行が殺されそうなの時、「しばらく」と言う大声が聞こえ女武者が姿を現す。この女こそ力自慢の巴御前。追ひ返そうとするが、とてもかなわない。巴御前は範頼のそばへやってきて、何の罪もない人々

を斬ろうとした範頼の行いを責め、許しもなく金冠白衣を身につけていることを非難し、義高が紛失した「倶利伽羅丸」も所持しているだろうと問い詰める。すると範頼の家来と見えた若葉が駆け寄って、義高の家来、手塚太郎に倶利伽羅丸を預けてあることを明かし、手塚太郎を呼び出す。実は若葉は木曾の家臣・樋口次郎の妹若菜で、範頼の配下になったと見せかけて倶利伽羅丸の行方を探っていたのだ。倶利伽羅丸を取り戻した義高一行を去らせ、巴御前は取り囲んだ仕丁たちの首を、大太刀をふるって一度に刎ねる。悔しがる範頼を尻目に、太刀を担いで巴御前はゆうゆうと引き上げる。悪人たちをやつた巴御前は、楽屋番に大太刀を預け六方を習ってはすかしそうに引込んでいく。

# 義経千本桜

## おし屋の場

岐阜歌舞伎保存会

郡上市

下市村「釣瓶鮒」の看板娘のお里は、奉公人の弥助との祝言を楽しみに待っていた。そこへお里の兄で勘当の身となっていた権太がやって来る。権太はいつものように母を欺いて金をせしめるが、父の弥左衛門が帰ってくるのを見て、慌てて鮒桶に金を隠して身を潜める。弥左衛門は隠し持ってきた首を列の空桶に隠し、弥助に向かって身の上を打ち明ける。実は弥助は平家嫡流の平維盛。維盛の亡父重盛に旧恩のある弥左衛門が密かに匿っていたのだった。

その夜、宿を求めて偶然訪れたのは維盛の妻・内侍と子・六代君。お里は維盛の素性を知って及ばぬ恋と嘆き悲しむが、梶原到来の報せを聞く。維盛達を父の隠居所へと逃がす。しかし、奥でその様子を見ていた権太は維盛を捕まえて金にするといつて維盛達の後を追っていく。

# 寿曾我対面

## 工藤館の場

岐阜歌舞伎保存会

土岐市

工藤祐経は源頼朝の信任厚く、数多の大名の筆頭の地位にある一臆色を賜り、富士の裾野で行われる巻狩りの総奉行まで仰せつかった。その祝いの宴に、多くの大名や全盛の遊女たちが詰めかける中、朝比奈三郎のとりなしで曾我十郎祐成と五郎時到的兄弟が、工藤に会いにやってくる。二人は父の河津三郎を討った仇敵として、十八年間付け狙ってきた、ようやく工藤に対面することができたのである。工藤は二人を見て誰かに似ていると言う。兄弟は河津三郎の忘れ形見だと告げ、その場で工

藤を討とうとはやるが、工藤は紛失している宝剣・友切丸が見つかるとは敵討ちはできないと申し渡す。悔しが二人の元へ曾我の忠臣鬼王新左衛門が、友切丸が手に入ったと持参する。工藤は勇む兄弟に「時節を待て」と言い、狩場の通行切手を与えて、再会を約束する。総奉行の大事な役目を終えたら、兄弟に会おうという工藤の思いが込められている。工藤と兄弟は狩場での再会を約束して別れるのであった。

# 奥州安達ヶ原三段目 袖萩条文の場

高知歌舞伎保存会

郡上市

皇子環宮の養育掛平倭伏直方は、妻・淡夕との間に、袖萩という娘がいたが、親の許しを得ないで阿部貞任と夫婦になったために勘当され、盲目となりながらも落人の夫貞任の行方を尋ねて諸国を流浪している。

そんな折、父倭伏が切腹すると聞いて、袖萩はお君を連れ、倭伏館へ辿り着き、門前で祭文に託して倭伏夫婦に不孝を詫びる。倭伏は娘の差し出した手紙から、その夫が貞任であることを知って驚く。やがて貞任の弟宗任が忍び寄り、倭伏を討てと

懐剣を袖萩に渡す。義家は曲者宗任を呼び止め、首に金札をかけて放してやる。

ついに倭伏は切腹し、その懐から証拠の書状を奪い、立ち去ろうとする中納言則氏を、貞任と見破った義家が引き留める。

詰め寄る二人の兄弟に後日の合戦での再会を約束して、別れた。舞台は、袖萩が娘お君に手を引かれながら、雪の中、父倭伏のいる御殿に辿りつくところから始まる。